活ト呼ブ、皆用ルニタヘズ、舶來本手ノ羌活、一名竹ノ節手ノ羌活ト呼ブモノ眞物ナリ、根ニ節アリ、又横文多ク、紫黑色ニシテ香氣アリ、味辛シ、然レドモ久シク渡ラズ、近年他ノ藥品中ヨリ擇出スモノアレドモ少シ、新渡獨活中ニモ少ハ混入セリ、寛政末年ニ渡ル羌活ハ、眞ノ竹節手ナリ、○中略

○土當歸○土、救荒本草ニ杜ニ作ル、　ウド　シカ筑前　ドゼン薩州中略○

此ニ其形狀ヲ闕ク、獨活ノ集解ニ根ノ形狀ヲ說キ、救荒本草ニ略苗ノ形狀ヲ載スルニ據リテ考レバ、ウドニ充ルヲ穩トスベシ、

增、ウドハ羌活ノ一種ナリ、土當歸ハハマウド、一名ハマアシタバトモ云、海濱ノ砂地ニ生ズ、春苗ヲ生ズ、葉ノ形大抵シヽウドニ似テ、深綠色ニシテ厚ク硬シ、面背共ニ光澤アリ、莖ニ數條アリテ紫色ヲ帶ブ、ソノ趣當歸ニ能ク似タリ、實生ヨリ三年ヲ經テ、夏月薹ヲ抽クコト六七尺、葉莖ニ互生シ、秋ニ至テ莖頂ニ枝ヲ分チ、小白花ヲ攢生シテ傘狀ヲナス、花謝シテ後實ヲ結ブコト、亦獨活ノ如シ、故ニ土獨活ノ名アリ、又鹹草ニモ似タリ、故ニハマアシタバト云、三年ノ後苗根共ニ枯ル、

獨活栽培

〔農業全書四榮〕獨活

三四月芽立を生ず、貴賤あまねく賞味する物なり、里遠き山野に生ず、冬より土中なる芽を取て食品とす、されど時ならざるを食ふは、よからぬ事にや、山野の空地多き所にては、地をひらきよくこなし、其根を取、わけて多くうゆべし、其地味よき所にては、甚早く榮へ、殊に味よし、貴賤皆このみ用ゆるものなれば、都近き所、又諸國の國都など、大邑ある近方にて、山野の餘地あらば、多く作り立て、市中に出すべし、

〔草木育種榮下〕うど　山の荒地を三四尺も掘、内を平にして其低處へ植付、冬の始より塵芥の内にて、木の枝竹等を拾捨、細き芥ばかりを、段々厚く覆ひ置、芽出る時、右の芥を取除、根へさわらぬ樣